

令和5年度

埋蔵文化財調査士補 資格試験

【I】択一式問題・答案用紙

受験番号	氏名

試験日：令和5年8月26日（土）

会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

問1 埋蔵文化財調査士補の資格に関する説明で正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士は、発掘調査現場を統括し、人事管理、安全管理、工程管理は担当するが、発掘調査現場を統括する役割には就かない。
- B. 埋蔵文化財調査士補の講習を受講し、その後の検定資格試験に合格した者には、自動的に発掘調査士補の資格が与えられる。
- C. 埋蔵文化財調査士補の資格を有する者は、5年毎に登録資格の更新手続きを取らなければならない。
- D. 埋蔵文化財調査士補資格の登録更新期間内に更新手続きを行わなかった場合、その資格は取り消しされる。

問1	C
----	---

問2 継続教育（CPD）制度の記述でまちがっているものはどれか。

- A. CPDは「Continuing Professional Development」の略語であり、資格取得後に、技術者自らの意志に基づいて、技術力の向上を図るための制度である。
- B. CPDは、学会等での発表、講演会等への参加など、その形態により獲得ポイントが決められ、日本文化財保護協会の「CPDの形態とポイント配分」表にまとめられている。
- C. CPDは、所属会社内の研修や担当業務の報告書作成実績なども有効活用して、CPDポイント蓄積に繋げていくことが出来る。
- D. 資格登録更新に必要なCPDポイントは、埋蔵文化財調査士では100ポイント、埋蔵文化財調査士補で50ポイントである。

問2	C
----	---

問3 埋蔵文化財調査以外の発掘の際に提出する発掘届は、工事着手の何日前までに提出するのか。

- A. 10日前
- B. 30日前
- C. 60日前
- D. 90日前

問3	C
----	---

問4 文化財保護法において、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲（遺跡地区）を規定する根拠条文が該当するのはどれか。

- A. 法第92条
- B. 法第93条
- C. 法第95条
- D. 法第99条

問4	B
----	---

問5 事業者に費用負担を求める範囲としてふさわしくないものはどれか。

- A. 出土品の展示のための保存処理費
- B. 発掘調査報告書の印刷製本費
- C. 重機等の借損料
- D. 学識経験者の現地指導費

問5	A
----	---

問6 平成10年の文化庁のいわゆる「円滑化等通知」で、民間調査組織の活用条件として求めたものはどれか。

- A. 調査成果の地域との繋がり
- B. 調査担当者の調査実績
- C. 写真測量等の技術
- D. 当該自治体の調査体制への組み込み

問6	D
----	---

問7 近現代遺跡を埋蔵文化財の対象として扱う場合の要件はどれか。

- A. 地域において特に重要なものの場合
- B. 調査担当者が必要と認めた場合
- C. 常に対象とする必要がある場合
- D. 地域において必要なものの場合

問7	A
----	---

問8 次の記述のうち正しいものはどれか。

- A. 労働時間の原則は休憩時間を除き1週40時間以内、1日8時間以内である。
- B. 満15歳に達した児童であれば、健康福祉に有害でない業務に自由に使用することが出来る。
- C. 常時使用する労働者は60人なので、まだ衛生管理者を選任する必要はない。
- D. 常時使用する労働者は60人なので、まだ産業医を選任する必要はない。

問8	A
----	---

問9 労働安全衛生法、労働安全衛生規則に関する記述のうちまちがっているものはどれか。

- A. 新規に労働者を雇い入れた時は、雇入れ時教育を実施しなければならない。
- B. 労働者の作業内容を変更した時は、原則として教育を実施しなければならない。
- C. 事業所で業務災害（休業）が発生した場合には、労働者死傷病報告を所轄労働基準監督署長宛に出さなければならない。
- D. 労災隠しに問われるのは、労働者死傷病報告を出さない場合に限られる。

問9	D
----	---

問10 墜落災害防止に関する次の記述で法令としてまちがっているものはどれか。

- A. 法令によると高所作業とは、1.5 m以上の高さでの作業である。
- B. 単管足場等における手摺の高さは現在85 cm以上とされている。
- C. 墜落制止用器具（安全帯）を使用する場合は、フルハーネス型が原則である。
- D. 法改正で交差筋交いの隙間からの墜落防止処置が対策された。

問10	A
-----	---

問11 ある発掘現場の状況に関して、法令違反となるものはどれか。

- A. 掘削面の高さが2 m以上となる地山の掘削の作業において、有資格者の中から作業主任者を任命した。
- B. 地山の掘削作業において、作業主任者が元方事業者との打合せで不在となったが、従来と同じ要領で作業を継続するように指示を受けたので従った。
- C. 勾配が20度の仮設通路に「踏み栈」が設けられていた。
- D. 現場に設置されていたハシゴの突出しが70 cmであった。

問11	B
-----	---

問12 ある発掘現場では、掘削した土を運ぶ目的でコンベヤーを使用しているが、次の記述でまちがっているものはどれか。

- A. 現場のルールとしてコンベヤー上への搭乗を許可している。
- B. 使用しているコンベヤーは、逸走防止装置付である。
- C. 使用しているコンベヤーは、非常停止装置付である。
- D. 使用しているコンベヤーは、感電防止用漏電遮断装置付である。

問12	A
-----	---

問13 旧石器時代の岩宿遺跡を発見した人はどれか。

- A. 浜田耕作
- B. 相沢忠洋
- C. 江上波夫
- D. 山内清男

問13	B
-----	---

問14 時期の違っている溝が交錯している場合に正しいものはどれか。

- A. 溝は新しいものから掘る。
- B. 溝は古いものから掘る。
- C. 溝は古い、新しい関係なく、どこから掘っても良い。
- D. 溝の覆土の粒子が粗いものから掘る。

問14	A
-----	---

問15 山内清男の業績として正しいものはどれか。

- A. 人種論でコロボックル説を唱えた。
- B. 縄紋が撚りの回転でできることを発見した。
- C. 縄文時代を4時期区分した。
- D. 有効鏝付土器は酒造具とした。

問15	B
-----	---

問16 次の土器型式のうち、縄文時代中期のものはどれか。

- A. 関山式土器
- B. 花積下層式土器
- C. 加曾利B式土器
- D. 勝坂式土器

問16	D
-----	---

問17 縄文時代の丘陵部の竪穴建物の調査で確認しにくいのはどれか。

- A. 柱穴の有無
- B. 床面・周溝の有無
- C. 建て替えの有無
- D. 住居内空間の利用状況

問17	D
-----	---

問18 縄文時代の竪穴建物の形態でまちがっているものはどれか。

- A. 円形に近い住居がある。
- B. 敷石住居や柄鏡形住居がある。
- C. 楕円形住居がある。
- D. 隅丸方形住居はない。

問18	D
-----	---

問19 紀元前5世紀とされていた弥生時代の開始年代が、平成15(2003)年に国立歴史民俗博物館により、理化学分析の結果、約500年遡ると報告された。この時用いられた分析手法は次のうちのどれか。

- A. 年輪年代測定法
- B. 放射性炭素年代測定法
- C. プラントオパール分析
- D. 考古地磁気年代推定法

問19	B
-----	---

問20 弥生時代中・後期に営まれ、環濠集落と並び倭国大乱を思わせる防御集落である高地性集落の研究において端緒となった集落遺跡はどれか。

- A. 池上・曾根遺跡
B. 吉野ケ里遺跡
C. 紫雲出山遺跡
D. 登呂遺跡

問20	C
-----	---

問21 『宋書』に登場する倭の五王の一人に比定される雄略大王（天皇）は、熊本県江田船山古墳の銘文鉄剣に獲加多支鹵大王として記載されている。同様の銘文が刻まれた辛亥年（471）の銘文鉄剣を出土した稻荷山古墳が属する古墳群はどれか。

- A. 千葉県龍角寺古墳群
B. 群馬県保渡田古墳群
C. 埼玉県埼玉古墳群
D. 神奈川県桜土手古墳群

問21	C
-----	---

問22 古墳から出土する銅鏡の研究から、伝世鏡の副葬や椿井大塚山古墳を核として地方に分有されている三角縁神獣鏡を考察し、政治勢力の動向を復元した「古墳の発生の歴史的意義」を昭和30（1955）年に著したのはどれか。

- A. 梅原末治
B. 小林行雄
C. 近藤義郎
D. 都出比呂志

問22	B
-----	---

問23 奈良県飛鳥寺の南東に接する谷で発見され、7世紀に遡る木簡群を出土し、また天武朝の手工業生産コンビナートとも称された遺跡はどれか。

- A. 水落遺跡
B. 飛鳥池遺跡
C. 甘樫丘東麓遺跡
D. 酒船石遺跡

問23	B
-----	---

問24 写真は地方末端官衙のひとつである武蔵国都筑郡家（神奈川県横浜市長者原遺跡）の復元模型である。この中で郡司らが政務を執る政庁（郡庁）はどこか。

A. ①

B. ②

C. ③

D. ④



問24

C

問25 古代官道の規模を測る上で、道路幅として捉えている両側溝の芯々間の長さのうち、平地を通る駅路（七道）の一般的な道路幅はどれか。

A. 6 m

B. 9 m

C. 12 m

D. 15 m

問25

C

問26 高輪築堤に関して正しいものはどれか。

A. 高輪築堤は、遺跡の全体が保存されることとなった。

B. 高輪築堤は、多くの学術団体が保存を呼びかけたが政治家の動きは特になかった。

C. 高輪築堤は、わが国初の鉄道遺構であり、しっかりとした台地上に構築された。

D. 高輪築堤は、イギリスの技術の導入もあったが、在来工法の蓄積もまた存在した。

問26

D

問27 石垣の積み方について、実際の現場でみられる状況でまちがっているものはどれか。

A. 同じ城跡であっても、時代を経た城の改修などで、構築時期の異なる石垣が存在する。

B. 文献調査で確認できた築城時期と実際の石垣の積み方は必ずあっているはずである。

C. 石垣の背面や内部に構築時期の異なる石垣が確認できることがある。

D. 地震などの災害によって、過去の段階で石垣の一部に補修を加えられている場合がある。

問27

B

問28 近世遺跡で出土する遺物について正しいものはどれか。

- A. 金属製品は、リサイクルされることで原形が残らないこともある。
- B. 日本では木の文化が発達しており、木材や木製品は、どのような場所にある遺跡でも豊富にみられる。
- C. 江戸では瓦は大量に出土するため、江戸時代にはどの家でも葺かれていたはずである。
- D. 江戸遺跡などの都市遺跡は、基本的には消費地であるので、内部では生産行為は行われていなかった。

問28

A

問29 次のうち、小山富士夫が提唱した「中世六古窯」の組み合わせとして正しいものはどれか。

- A. 瀬戸窯、常滑窯、信楽窯、丹波窯、備前窯、越前窯
- B. 瀬戸窯、常滑窯、唐津窯、丹波窯、備前窯、越前窯
- C. 瀬戸窯、常滑窯、景德鎮窯、丹波窯、備前窯、越前窯
- D. 瀬戸窯、常滑窯、信楽窯、丹波窯、龍泉窯、越前窯

問29

A

問30 ガラスを材料とする遺物の調査に関してまちがっているものはどれか。

- A. 江戸時代には、鼈甲素材の代用品として、黄色のガラスが使われることがあり、簪・筭などの遺物が発見されている。
- B. 江戸時代には、ワインボトルをはじめ、アップルサイダー瓶など、輸入された瓶類が入ってきていることが確認されている。
- C. ガラスを材料としていれば、最近のものなので、すべてを調査対象にしなくて良い。
- D. 近現代のガラス瓶については、櫻井準也氏が『ガラス瓶の考古学』を著すなど、積極的に遺物としての評価を行っている研究者も存在する。

問30

C

- 問31 発掘調査の情報処理における基準・参照情報についてまちがっているものはどれか。
- A. 遺物がどの遺構から出土したか知ることができるように遺物番号と遺構番号を紐づける必要がある。
 - B. 調査担当者ごとの独自の基準や書式を避け誰もが参照できるようにするべきである。
 - C. ひとつの調査の成果を別の調査に活かすために情報のフィードバックが重要である。
 - D. 発掘調査の記録は調査毎に完結するものなので、他の調査区の情報とつなぎ合わせることに留意する必要はない。

問31	D
-----	---

- 問32 発掘調査情報のデジタル化について正しいものはどれか。
- A. 計測・記録の段階からデジタル化された機器を用いたものだけがデジタル化情報である。
 - B. 記録・情報をコンピューターに取り込み、保管、整理、分析できることが利点である。
 - C. デジタル機器は精度に不安があるため、手測りで記録した情報をコンピューターに入力することが良い。
 - D. デジタル化した情報は複製すると劣化・変質するので原本を管理しなければならない。

問32	B
-----	---

- 問33 発掘調査記録の原データと報告書の関係についてまちがっているものはどれか。
- A. 発掘調査報告書には、調査時に得られた原データだけを収録する。
 - B. 原データを取捨選択、分析し、必要な情報を抽出したものを報告書に掲載する。
 - C. 原データはそのままでは理解が困難なため、表や図を作成して掲載する。
 - D. 分析結果や整理された表、図のほかに原データも共有されることが望ましい。

問33	A
-----	---

- 問34 埋蔵文化財調査のデジタルトランスフォーメーション（DX）について正しいものはどれか。
- A. 計測・記録作業のデジタル化は、掘削・運搬等の機械化と同様に作業の効率化に有効である。
 - B. 埋文DXとは機器や情報をデジタル化することで十分達成される。
 - C. DXとは、個別の工程や成果のデジタル化を指す。
 - D. 専用の機器・ソフトウェアを整備することがDXに最も重要である。

問34	A
-----	---

- 問35 奈良文化財研究所が運用・公開しているオンライン遺跡地図閲覧システムとして正しいものはどれか。
- A. 全国遺跡地図閲覧システム
 - B. 全国遺跡報告総覧
 - C. 文化財情報WebGIS
 - D. 全国文化財情報デジタルツインプラットフォーム

問35	C
-----	---

- 問36 ウェブ地図・GISに関して正しいものはどれか。
- A. GoogleMapの地図を報告書に自由に掲載利用してよい。
 - B. 国土地理院「地理院地図」で遺跡分布図等を作成することができる。
 - C. GISは内部情報だけを管理するものであり一般公開には別のシステムが必要である。
 - D. 3DデータとGISは別に管理する必要がある。

問36	B
-----	---

- 問37 発掘調査の現場において、適切な情報処理をおこなうために重要な事柄として正しいものはどれか。
- A. 発掘調査の情報処理は、事前調査から報告書作成後まで全体を見据えて計画する必要がある。
 - B. 発掘調査の情報処理は、当該発掘調査で取得した情報のみを対象にすればよい。
 - C. 発掘調査の情報処理は、調査計画時に決定した内容を変えてはならない。
 - D. 発掘調査の情報処理は、調査担当者のみが情報処理の内容や過程を理解しておけばよい。

問37	A
-----	---

- 問38 遺跡探査についてまちがっているものはどれか。
- A. 航空レーザー測量によって取得したデータの公開は進んでおり、遺跡の地形情報の取得に役立てることができる。
 - B. 遺跡探査を実施すれば遺跡の内容をすべて理解できるから、発掘調査は必要ない。
 - C. 遺跡の物理探査は、ノイズの発生を抑えるため、発掘調査中や発掘調査後に実施するよりも発掘調査前に実施することが好ましい。
 - D. 電気探査は、地中に電気を流し、土壌などの電気抵抗率を計測するものである。

問38	B
-----	---

問39 発掘調査における記録手法について正しいものはどれか。

- A. G N S Sを用いた位置情報の記録は、どのような場所であれ精度の高い計測が可能であり機器の設置も簡便なので、この方法をできるだけ選択したほうが良い。
- B. 最近登場した i P h o n e 内蔵の L i D A R は簡便に計測できるので、今後の文化財の記録に最も適している。
- C. S f M - M V S を利用した記録では、適切な画像群を得るとともに、調査現場で撮影直後に仮の解析を実施し、写真に不足が無いか、構築したモデルに問題が無いか確認する必要がある。
- D. 無人航空機はこれまでと比較して空中写真を簡便に得られる手法だから、今の調査現場は住宅密集地にあるが、必要とあればすぐに飛行させなければならない。

問39	C
-----	---

問40 発掘調査報告書の作成についてまちがっているものはどれか。

- A. 遺構や遺物を総合的に検討して遺跡の情報を整理し、考古学だけでなく、文献史料の適切な利用のほか、民俗学的視点からの検討など様々な視点から総合的に遺跡を評価する。
- B. 発掘調査報告書は刊行することが目的なので、全体を通して不明瞭な点や不整合な点を確認しても、逐一発掘記録類や実資料にあたるなど確認作業は必要ない。
- C. 発掘調査報告書のデジタルデータは、奈良文化財研究所が運営する全国遺跡報告総覧に登録することができる。
- D. 遺跡の発掘調査情報は、埋蔵文化財保護や歴史研究などに資するだけではない。過去の災害の痕跡の有無も詳細に記録することから、将来の地震や洪水など自然災害への備えにも貢献する可能性がある。したがって、発掘調査報告書の作成にあたっては、歴史学や考古学の専門家だけでなく幅広い人々が活用できるようにする必要がある。

問40	B
-----	---

問41 保存処理前の出土鉄製品を一時的に保管する時の注意点としてまちがっているものはどれか。

- A. 刀剣に木鞘等の残片が付着している場合は、無理に分離せず樹脂塗布などにより強化・養生しておくのが良い。
- B. 鉄製品のサビの主たる原因は水滴なので、結露する場所を避けて風通しの良いところに保管するのが良い。
- C. 出土鉄製品には、内部までほぼ完全に錆びたものと内部に健全な金属鉄が残っているものがあるので、磁石や金属チェッカー等で調べておくと良い。
- D. 鉄製品はその製作方法により鍛造品と鋳造品に大別され、サビの進行状況が異なるので、仮保管中の注意にも違いがある。

問41	B
-----	---

問42 発掘現場で遺物を固定して遺構の一部とともにそのまま取り上げる作業（ここでは以下、「取り上げ」と表記する）についての説明でまちがっているものはどれか。

- A. 取り上げに際して遺構の一部が破壊されることになるので、なるべく破壊の影響が小さくなるよう取り上げの位置や大きさについて事前に検討しておく必要がある。
- B. 取り上げは遺物自体の保存だけでなく、遺物の位置情報の保存にも役立つので、現場における位置データを記録しておくことが望ましい。
- C. 近年、取り上げた遺物を梱包のままX線CTで観察することが可能となってきたが、広く用いられている発泡硬質ウレタン樹脂はX線を吸収するので使用できない。
- D. 水銀朱の散布状況を遺構切り取りによって取り上げる事例があるが、有毒な水銀化合物であることを認識して安全に作業を実施し、取り上げ後も適切に管理する必要がある。

問42

C

問43 出土した骨角製品や人骨、獣骨、角、歯等を一時的に保管する時の注意点としてまちがっているものはどれか。

- A. 馬歯は振動によって壊れることが多いので蓋付容器に収め、急乾燥とカビを避けて保管する必要がある。
- B. 刀剣に装着された鹿角製柄頭は極端な乾燥を避けるべきなので、損傷を与えずに分離できる場合は刀身から分離して保管する方が良い。
- C. 獣骨や人骨の表面には加工痕や病痕、付着物などがある可能性があるため、汚染に注意しつつ丁寧な観察と養生が必要である。
- D. 骨や角にはカビが発生しやすいので、保管中はカビ防止のためエタノールなどの消毒液中に浸しておく必要がある。

問43

D

問44 出土遺物の分析をめぐる説明としてまちがっているものはどれか。

- A. 破壊／非破壊を問わず、分析に関する成果の帰属や公開・発表の手続きなどを、分析依頼者と分析者の間で契約しておく必要がある。
- B. 出土遺物には、土その他の「汚れ」が付着していることが多いので、破壊分析の場合、遺物の外周の「汚れ」を除去してから内側の部分を分析試料とするのが一般的である。
- C. 破壊分析に供試するために遺物から試料を採取する場合は、分析者、試料採取者、資料提供者の間でその採取量・部位について十分な了解が成り立っている必要がある。
- D. 走査型電子顕微鏡（SEM）による測定では、試料表面にチャージする電子を流すために金や炭素でコーティングする場合がありますが、文化財分野ではそれを避けるため高真空タイプのSEMを使用することが多い。

問44

D

問45 出土遺物の保存処理法の選択についてまちがっているものはどれか。

- A. 保存処理に先立つ調査・診断に基づき関係者間で検討を行ない、その結果、保存処理を必要としない、技術的な目途がつくまで延期する、優先順位の高い別の遺物を先に処理する等の選択に至ることもあり得る。
- B. 処理に用いる薬剤の選択に当たっては、将来保存処理をやり直すことを考慮してなるべく除去しやすいものを選ぶべきである。
- C. 保存処理作業における有害薬剤、粉塵、X線被曝等による健康被害を防ぐため「出土文化財保存処理に関する安全作業規則」が制定され、各事業所は法令順守が必要になった。
- D. 古墳出土の青銅鏡、金銅製馬具、金銅製の装飾品などの保存処理法選択に当たっては、博物館での展示などを考慮して美的な価値を損なわないことにも配慮が求められる。

問45

C

- 問46 堆積物や土壌について示す記述の中でまちがっているものはどれか。
- A. 堆積物は、流水、氷河、風、火山活動などの作用と重さによりふるい分けられて集積した。
 - B. 堆積物は、化学的作用により水溶液中から沈殿し集積した。
 - C. 土壌は、岩石などが風化し、腐植が集積するため、下位より形成される。
 - D. 泥炭は、植物遺体が集積し、還元状態で堆積したものである。

問46	C
-----	---

- 問47 テフラの特徴についてまちがっているものはどれか。
- A. 火山灰による地層の対比や編年を行うことは不可能である。
 - B. 火山灰・軽石・スコア・火砕流堆積物・火砕サージ堆積物などの総称である。
 - C. 短期間に広範囲の地層に痕跡を残す。
 - D. 爆発的噴火により給源火山から数百～千 km 以上も遠方でも地層として認められる火山灰がある。

問47	A
-----	---

- 問48 大型化石の特徴としてまちがっているものはどれか。
- A. 燃えた炭化材は乾燥した場所からも出土し、台地上や山中の古植生を知ることができる。
 - B. 種実遺体は、種まで同定可能なものが多いが、多量に出土しないため定量化が難しい。
 - C. サンゴ類、フジツボ類、ウニ類などは貝でないため試料中から検出されても無視して良い。
 - D. 焼けた骨は、800℃以上で灰白色となり、ひび割れ、収縮・硬化が見られる。

問48	C
-----	---

- 問49 古環境を復元するにあたり正しいものはどれか。
- A. テフラやその他の鍵層に基づき、地点間の層序対比を行う必要がある。
 - B. 古環境を復元するにあたって、遺物の編年や遺構の性格などは気にしなくても良い。
 - C. 低湿地の遺跡であることから花粉分析のみで古環境を検討すれば良い。
 - D. 古環境を検討する際は、地形や地層の成り立ちを考慮せずに単独で検討する必要がある。

問49	A
-----	---

- 問50 放射性炭素年代測定用試料についてまちがっているものはどれか。
- A. 放射性炭素年代測定は、木材、炭化材、種実遺体、炭化物、骨、貝などで測定が可能である。
 - B. 試料は、丁寧な化学処理を行なうために、採取量を可能な限り少量とする
 - C. 大木の樹芯部分では、伐採/枯死した年代より数百年古い年代値が得られる。
 - D. 骨の年代測定はコラーゲンを対象とし、回収率やC/N比などを指標として品質評価を行う。

問50	B
-----	---